



# 会報 SHINSHIYOU 神私幼

平成21年9月1日

第169号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：(社)神奈川県私立幼稚園連合会  
発行人：会長 渡邊 真一  
編集人：神私幼総務部(広報室)  
発行：年4回(6月・9月・12月・3月)  
発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0011 神奈川県横浜市神奈川区神之木台22-14 県青少年課神之木台分館内  
TEL. 045 (430) 3102 FAX. 045 (430) 3103



会長挨拶 **未来を担う幼児教育を語る** ●幼稚園連合会会長 渡邊 真一

2・3 次年度予算に対する要望 ●振興部長 山口 繁美

研究部報告 **不易流行** ●研究部長 亀ヶ谷 忠宏

統合保育基礎講座／新規採用教員研修／関東地区教員研修新潟大会

4・5 速報 **こどもの豊かな環境キャンペーン**

父母の会だより

**よりよい連携・協力を目指して** ●父母の会連合会会長 井上 貴子

6 連載 **地域の父母連活動 川崎協会・横須賀協会**

**完成間近 かながわ幼稚園会館**

7 投稿 **園庭の栗** ●安部幼稚園園長 安部 富士男

8 研修会報告／**新規加盟園情報**(学校法人川崎協立幼稚園)



# 未来を担う 幼児教育を語る



県連合会 会長

渡邊 真一

今般、表記のテーマを広報室からいただきました。その背景は：国は平成十八年十二月に「教育基本法」を改正し、第八条(私立学校)で「私立学校の役割と私立学校教育の振興」について新しい条文を明文化しました。

そこで神奈川県私立学校審議会では、この機会に改めて神奈川県私学の現状と課題を見直し、更には将来に向かって何を提言すべきかを各校種別(幼・小中高・専各)に意見を集約し、「建議」(建議とは意見や希望を申し述べること)にとりまとめ、県当局へ提出することになりました。本連合会では正副会長会、常務理事会、理事会の議を経て、幼稚園版の建議「神奈川の私立学校(幼稚園)教育の振興」について審議会に提出、現在、神奈川の私学としての意見等の取りまとめをしているところです。

さて本県の幼稚園教育の責任を担っております(社)神奈川県私立幼稚園連合会では、昭和五十八年「私立幼稚園に対する今後の施策の方向について」をまとめ、県の幼稚園教育の基本的な施策の方向を建議しました。

以来、四半世紀の歳月を経た今日、幼稚園や幼児を取り巻く状況は大きく変わり、幼稚園教育の在り方そのものが縷々問われる時代になりました。男女共同参画社会の今日は、女性の社会進出が進み、保護者の子育ての仕方も多様化して、幼稚園も「預かり保育」を子育て支援の一つとして行う時代にもなりました。

そしてなによりも大きな変革は平成十九年度からはじまった「認定こども園」(教育・保育サービスを一体的に提供する施設)の制度です。この制度が県内でどのくらい普及するかについては、今後の私立幼稚園の存在意義と持続性にかかわる問題であると考えます。

一方、私立幼稚園には一〇〇余年を超える教育実践と歴史の重みがあります。幼稚園と保育所の垣根が一段と低くなる時代に、幼児期の教育を担うかけがえのない教育機関が幼稚園であることの自負を改めて県民に理解させ、教育と子育て支援の拠点が私立幼稚園であることの意義をこの機会に強く県民に訴えたいと思います。

ところで県では、国が示した「幼児教育振興プログラム(平成十三年三月)」を受け、「架け橋へ今後のかながわの幼児教育について(平成十七年三月)」をまとめ、今後のかながわの幼児教育についての構想を発表しました。その内容は本県のこれから先の課題を「幼児の育ちを保障する神奈川」、「子育てを担う家庭や地域の教育力の充実を図る神奈川」ととらえ、具体的な方策と以後の取り組みの道筋を示すものでした(県版の「架け橋」は各園に届いていません)。現在、神奈川県幼児人口(満三歳未満)が約九〇万を占める私立幼稚園の役割と責務は非常に大きく、県内唯一の責任団体の立場から上記県版幼児振興プログラム・「架け橋」の理念と諸課題に對峙していく姿勢が当連合会に求められていると考えます。

今般、「神奈川の私立学校(幼稚園)教育の振興」についての建議を機会に私立幼稚園が抱えている現状と課題・神奈川私学(幼稚園)の目指す方向を以下に示し、次世代の私立幼稚園の振興と発展につながる意見をまとめてみました。

## 現状と課題

### (1) 私立幼稚園の役割と責任

県内の幼稚園児の九〇%が私幼に在籍。私幼の役割と責任は重要。

### (2) 幼稚園の教育機能と位置づけ

親育や低下する家庭や地域の教育

力を補う機能が求められる時代になった。

(3) 地域の子育て支援の推進(預かり保育) 仕事を持つ親と持たない親の双方に子育て支援ができるのが幼稚園の預かり保育の特色。待機児童対策の一翼を担っている。

(4) 地域の子育て支援の現状と幼稚園 県内の多くの幼稚園が子育ての社会的な役割を担って活動している。

### (5) 親子の共育が幼稚園

保護者とのかわりが密接で、子育ての喜びが直接共有できるのが幼稚園。他校種にはない特色である。

### (6) こどもにとって最善の利益は…

真剣に探究していくことが極めて重要なテーマである。

### (7) 私立幼稚園の持続性に危惧

この先々の私幼経営はまさに正念場。県内の他校種に比べて経営基盤の弱い私幼の持続性が危惧される。

### (8) 幼児教育の無償化と幼稚園

保育所の三〜五歳児を含む無償化という施策は、私幼経営の今後に大きな課題となる。無償化と県補助金との関係を含め、今後の動きに注目したい。

### (9) 神奈川の子どもの未来への投資

未来への投資は次世代の人材育成。その責任を果たすため将来に禍根を残さない投資を期待したい。

### (10) 統合保育は幼稚園独自の教育

幼稚園では小中高校ではできない障害児の受け入れを積極的にを行い、幼稚園独自の教育を行っている。

### (11) 県内の幼稚園教育は私学がリード役

今後も教職員質の向上、優秀な人材の確保と育成、更なる教育の質の向上、経営努力などが求められる。

### (12) 幼稚園と認定こども園

認定こども園との違いを既存の幼稚園がどうアピールしていくかが、今後の大きな課題となる。

### (13) 幼保連携型の認定こども園における幼稚園の認可

保育所との合計定員が幼稚園認可基準に達していても十人程度の少数で幼稚園を認可することは問題である。

### (14) 満三歳児入園の矛盾

満三歳児の年度途中入園児は県補助金の対象外という制度上の矛盾がある。要検討をお願いしたい。

## 神奈川私学(幼稚園)の目指す方向

(1) 特色と魅力のある教育・保育の展開 私立幼稚園の教育は、他校種の教育にはない特色と教育の独自性を生かしながら、地域社会の幼児教育に貢献し生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を培っていることを強く県民にアピールし、同様に公的支援を強く求める。

### (2) 学校法人の展開

県当局は監督庁の立場から、いかなる学校といえども「公の性質」をもつべきと、公共性の確保(学校法人立の幼稚園)を私立幼稚園に求めている。しかし実際は歴史的な経緯があつて個人立幼稚園が現存し、県の幼児教育振興・発展に寄与してきたことも事実である。個人立幼稚園の学校法人化への道のりは、各園の選択と責任に委ねざるを得ない課題であるが、学校法人・個人立等の設置主体にかかわらず、今後も継続できるような行政の施策を期待したい。

### (3) 学校法人の健全な経営の確保と公共性の一層の向上

健全な経営の確保は、私学にとって法人経営の生命線である。公費補助を担保に更なる経営の透明性と公共性が求められている現在、他校種に比べて経営規模が小さい私立幼稚園の法人経営に厳しいものを感じる。県知事認可の私立幼稚園が幼児の教育・保育に全力を注ぐことができる健全でかつ安定した経営基盤の確保のためにも、安定的な公的支援が担保される必要がある。その一方法として私立学校の振興の条例化(「経常費補助金の県条例化」)が必要と考える。

### (4) 県民と「かながわ幼稚園会館」

「自前の幼稚園会館を持ちたい」という私立幼稚園の永年の夢が現実となり、平成二十一年十一月、幼稚園会館が竣工、完成する。この幼稚園会館は、私立幼稚園の振興と発展に寄与するだけでなく、幼稚園の地域密着型として、広く県民の幼児教育・子育て支援に役立つ機能(育児・教育相談、子育て情報の発信、講座等)を兼ね備えた「かながわ幼稚園会館」(幼児教育センター)としての機能が充実が求められている。

## 次年度県予算に対する要望



振興部長 山口 繁美

平成22年度の要望内容は例年と大きく変わることはないが、振興部会、常務理事会に諮り、要望書にまとめたものを理事会で説明、了承を受けた。この要望の実現には県議会各会派のご理解とご協力を得る必要からヒヤリングを受けなければならない。7月6日の自由民主党に始まり、17日に公明党、31日に民主党とヒヤリングを続けた。県政会は総選挙の日程により今年度は要望書の提出のみとなった。8月7日には県民部長に要望を行い、要望活動を終了した。ヒヤリングは会長の総括的な要望に始まり、振興部長から項目別の説明をし、質問を受ける形式である。この席には正副会長、振興部長・次長、総務部長、事務局長及び退職基金財団からも理事長以下役員が出席した。

今回の要望は経常費補助金一般と特別を重点に説明をして理解を求めた。要望の内容は次の通りである。

### 一般補助

#### ■経常費補助金の充実

教職員割算定・額の見直し

- ・一職階とされている教職員割の算定を三職階(園長・主任・教職員)に分けた算定に改善。
- ・地域手当の算定割合を30%に改善。
- ・一種免許所持教員への算定額の割り増し改善。

#### ■補助対象教員の増

- ・きめ細かい保育への対応から実教員数やパート教員が増えており、更に「チーム保育」補助金の廃止により財政を圧迫している。

#### ■学法外の園に対する補助単価の増額

### 特別補助

#### ■預かり保育補助金の充実

- ・国庫補助単価と同額の実施と対象園数の増。

#### ■地域開放事業補助金の充実

- ・国庫補助単価と同額の実施と事業に取り組む学法外の園に対して補助がなされるような施策の充実。

### その他の補助

#### ■特別支援教育費補助金の拡充

- ・一人でも国庫対象児と同額の補助。

#### ■認定こども園に対する積極的な取り組み

- ・この制度の充実が補助制度の創設が必須である。

#### ■かながわ幼稚園会館事業への支援

- ・会館で行う各種事業の内、新たに設置する「幼児教育センター」で行う公共性の高い事業への支援。

以上が要望書の内容である。

今年の要望書の資料に、過去30年間の「都道府県別経常費補助単価順位表」を添付した。神奈川に於ける単価・順位推移はその時の県財政の状況や人的状況と共に『他都道府県行政及び私幼団体の頑張りにより神奈川県の行政及び私幼団体が付いてゆけなかった』とも読める面がある様に思われる。

来年度への要望の実現には、県当局はもちろん、県議会各会派の県会議員の方々にも大いにご協力をいただく必要があり、そこで好むと好まざるに関わらず、幼児教育振興連盟の側面からの支援が欠かせないものとなる。全ての加盟園の力で県下私立幼稚園の振興を支援願いたい。



### 速報 こどもの豊かな環境キャンペーン

全日私幼連では、2009年、子どもをめぐる「環境」が豊かさを取り戻すために、史上初の全国一斉キャンペーンを展開します。

このキャンペーンを通して、子どもが幸せに暮らせる社会基盤の整備や、そのための施策づくりを目指した運動です。

「子どもは未来の宝」です、子どもたちが将来、社会の中で個性を発揮し、たくましく生きていく、そのために子どもたちが生きる「今」が充実し、「豊かな」ものであることが必要不可欠です。

「子どもにとって豊かな環境とは何か」「豊かな子ども時代が大切」「豊かさとは何か」私たちだけでなく、社会全体で考えるきっかけとして、このキャンペーンが立ち上がります。資金は、一億円を目標に、募金は賛同者（設置者、園長、保護者、こどもなど）から集めます。

協力方法については、後日お知らせします。

#### テーマ

### 幸福こども計画2009

#### スローガン

### いま、子どもを社会の最前列へ

#### ●キャンペーンの行動計画

- ・詳細な事業計画で行う従来型の手法はとらず、運動展開のなかで私たちの思いを少しずつまとめて発信していく。
- ・「豊かな子ども環境」を見直すことを基点として、「子どものための」ワークライフバランスを推進する。
- ・当面10年継続を目標とする。
- ・47都道府県が一体となった運動展開を実施する。
- ・最大のメディアは8000園の加盟園・教職員、130万人の園児の保護者。
- ・キャンペーン展開の資金は賛同者からの募金を充てる。

#### ●キャンペーン期間

平成21年7月初旬からスタートして、子ども第一主義の社会づくりの共感が起こるまで、毎年継続的に運動展開する。



子どもをめぐる環境」がテーマでした。人間の本能には食欲・性欲・集団欲がある。人間としての社会的成熟とは、人とうまく繋がり合えること。

今年度は三回シリーズで行う「統合保育基礎講座」。講師は受講者の皆様から絶大な人気の上原文先生。一学期中に二回が終了しました。第一回目は、「配慮が必要な子どもたちの理解と対応」をテーマに行いました。幼稚園における特別支援教育は、

### 統合保育基礎講座

研究部員 山田 まり子

### 不易流行



研究部長 亀ヶ谷 忠宏

「不易」は時代の新古を超越して不変なるもの、「流行」はそのときどきに依りて変化してゆくものを意味するが、両者は本質的に対立するものではなく、真に「流行」を得ればおのずから「不易」を生じ、また真に「不易」に徹すればそのまま「流行」を生ずるものだと考えられている。

未来に向けて時代の変化にも対応しながら永続していく私立幼稚園において「不易流行」は重要なキーワードである。子どもの心や発達、仲間との育ち合いなど保育の本質は「不易」であり、社会の変化によって始まった免許状更新新制度や、自己評価・学校関係者評価などは「流行」といえるであろう。今対立的に捉えがちな免許状更新講習や学校評価の「流行」も、保育者や園長が受けて良かった、そして保育や幼稚園がさらに良質になったと思えるような中身になっていくことで「不易」に向かっていくのである。研究部の一環の役割は、「不易流行」を結合するために、枠組みとしての研究・研修にわたる血を通わせることだと確信している。

### 新規採用教員研修会

研究室長 高 方子

先生のお話にあらためて親の思いを実感する場面でした。今年度からは、幼稚園連合会が主催となって会を運営することになり、五月七日より研修会がスタートした。約二三〇名の参加申込みがあり、一学期に三回、八月に二日間行なった。内容は、次のように新採の教員には欠かせない充実したものであった。

- ・私立幼稚園に勤める意義や 素晴らしさ（渡邊真一）
- ・子どもの心に寄り添う 保育のあり方（兵頭恵子）
- ・教師の役割（平山許江）
- ・心を解放しながら人との関わり方

### 関東地区教員研修新潟大会

研究室長 高 方子



象的であった。研修会に参加する心構えも学びの一つとなったことと思う。また、この研修で得たことが、園での子ども達との生活の糧となり、今後、教員として大きく成長していくものと確信している。\*講師は紙面の都合上敬称を省略させていただきます。

トラクションは、高校生のエネルギーが豊富なダンスがあり、心豊かな学びができた大会一日目であった。翌日は、十五のフォーラムに分かれ、それぞれの提案をもとに参加者での協議やゲストからの助言等があった。神奈川県は、昨年から継続テーマである「三・四・五歳の生活と五歳児の育ち」「子育て家庭支援と二歳児保育」の二つのフォーラムを担当し、横浜・川崎・藤沢・相模地区より有意義な研究発表・問題提起があり熱心な討議が行なわれた。二日目は、フォーラムごとに閉会を行い、学びの多い研修大会の幕を閉じた。

### 財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構より

#### ●『幼児教育実践学会』が立ち上がります

22年度本格実施に向けて21年度はプレ学会を行う。

- Point
- ・実践を踏まえた映像を用いた保育に生かせる研究を行う。
- ・生きた研修のメイキングの仕方を学ぶ機会とする。
- ・現場と共に歩む若手研究者を育てる場にもしたい。

#### ●平成22・23年の教育研究課題が決まりました

「幼児教育の成果を社会に示そう」～人格形成は幼児期の生活とあそびから～  
上記のテーマの元、平成22・23年より新しい教育研究課題になります。今までと変わる点は、俯瞰図に沿った分類の仕方になっています。

※詳しい内容をお知りになりたい方は全日の研究機構のHPよりダウンロードできます。

<http://www.youchien-kikou.com/>





横浜ポートサイドプレイス  
レジデンス業務棟5F  
横浜市神奈川区大野町1-25、26



とうとう長年の夢、「自前の栖」を持つことが出来ます。資金計画、物件の信頼性、地の利等申し分のない状態です。県連会長渡邊先生の強い信念と三団体代表の皆様の「小異を捨て大同につく」の精神により三者が同居するという問題も合意形成に至りました。関係の皆様改めて感謝を申し上げます。  
場所は横浜、同居人も横浜協会、退職財団、こういった環境下ではありますがそのメリットを最大限活かすために相互のより密接な関係を築きつつ、あくまでも神奈川県幼稚園教育の中心として、全県域を視野に入れた活動をしていかなければなりません。「仏作って魂入れず」今後はこの諺に留意した対応が望まれます。

### 完成間近

## かながわ幼稚園会館

### 渡り鳥の生活に終止符



会館問題検討委員会  
委員長 井上 久

「富士見台に行こう」と三歳児に手を引かれて尾根に登ると、雑木林を吹き抜ける風が体を包み残暑の疲れを癒してくれます。真が「あつ！大きな栗」と指さしていました。見上げると長径二センチもある栗が、木漏れ日を受け、つやのある栗色に輝いていました。その栗に大地の力がみなぎっています。

### イガゆ覗く栗に大地の力満つ

（「ゆ」は「から」という意味の助詞）

### 稚児二人栗を見せ合う笑み静か

### 栗落ちし音蒼天にしみてあり

### 栗拾う稚児の背中に空やさし

### 大栗に小栗身を寄すイガの中

見学の父母に連れられてきた三歳児が、雑木林で遊ぶ園児を見ています。栗拾いしている子に興味を持ち母の手を引いて富士見台にきました。

栗を拾っている園児に誘われ栗を拾い始めました。可愛い笑顔を浮かべて栗を掲げ「お母さん、大きな栗」と嬉しそうです。わが子を見つめる両親の表情もさわやかでした。

### 父母に栗見せて笑む子の眉清し

（安部幼稚園 園長）

### 投稿

## 園庭の栗

安部富士男



「富士見台に行こう」と三歳児に手を引かれて尾根に登ると、雑木林を吹き抜ける風が体を包み残暑の疲れを癒してくれます。真が「あつ！大きな栗」と指さしていました。見上げると長径二センチもある栗が、木漏れ日を受け、つやのある栗色に輝いていました。その栗に大地の力がみなぎっています。

## 父母の会だより

### よりよい連携・協力を

### 目指して



神奈川県私立幼稚園  
父母の会連合会会長  
井上 貴子

長い夏休みが終わり、子どもたちの幼稚園の生活リズムが戻りつつある中、幼稚園の先生方におかれましては、秋の行事の準備等でお忙しい事と存じます。

本年度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会会長を務めさせていただくことになりました。これまで父母の会が培ってきた実績をいかせますよう、他の役員メンバーと共に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

子どもたちの生活環境は親世代が子どもだった時代から劇的な変化を

### 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 委員名簿

役職	園名(協会名)	氏名
会長	しのはら(横浜)	井上 貴子
副会長	宮崎台(川崎)	木所 貴美子
	相武(横須賀)	大賀 由美子
庶務	あけぼの(横浜)	小柳 恭子
	城山(小田原)	白井 純子
会計	すみれが丘(横浜)	横山 未佳
	さゆり(横浜)	高橋 真代
監事	鹿島田(川崎)	大森 順子
	相模ひまわり(相模原)	岸 麻衣子

遂げ、また子育てをする環境も同じく大きく変化し、さまざまな問題を抱えています。近年の法改正や要領施行をみても、幼稚園教育の重要性はますます高まっています。次世代を担う子どもを育てている親として、私たち保護者も親としての責任と共に社会における子育て支援活動に協力していく事も重要であると考えます。

本連合会では県下私立幼稚園の父母を代表する組織として、組織の拡充を図りつつ、子どもたちの幸福の増進と父母自身の意識を高めるため、さまざまな活動を行なっていきます。

各地区協会父母の会・各地区協会・社団法人神奈川県私立幼稚園連合会と連携・協力して、幼稚園教育の振興と保護者の教育費負担の軽減に対する補助金の確保や子育てに関する研修会の実施、また活動を推進していくために必要に応じて各園の父母の会会員に対し広報活動も行なっていきます。より大きく活動を展開していくためにも、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 地域の父母連活動

### 充実した活動を目指す



川崎市・梶ヶ谷幼稚園 村田 清一  
川崎市幼稚園協会は85園すべてが幼稚園協会に加盟しています。その内の7区より13名の常任委員と2名の監事で父母の会連合会が構成されています。

活動内容は、川崎市幼稚園協会会議室にて常任委員会を年3回実施し、中原市民館ホールにて父母連定期総会を年2回、教育文化会館ホールにて父母の会大会を年1回行っています。父母の会大会は、2000名前後の父母の方が参加し、来賓には川崎市長をはじめ各議員の方々をお招きして実施します。毎年2名の常任委員のお母様が意見発表を行い、子ども達の健やかな成長を願い、保育料補助の増額をお願いしています。

また、6月と9月に3会場で計6回、色々な講師の方に講演をお願いし、子育てセミナーを実施しています。参加されるお母様方も毎回真剣に聞き、質問等も多く子育ての参考になっています。

7月上旬には、川崎市幼稚園協会役員と父母連役員で、川崎市長、市議会議長への表敬訪問に行き、色々な意見交換をしています。



▲父母連定期総会



▲子育てセミナー

### 保護者の架け橋に



横須賀市・相武幼稚園 大賀 由美子  
横須賀地区の父母連の活動は、各幼稚園内と全国大会、県大会そして横須賀市私立幼稚園協会主催の子育て支援「いっしょにあそぼう」「子育てセミナー」への参加が主なものとなります。

年数回の限られた活動のなかですが、各園や地域での枠を超えた大会に参加させて頂くことで、著名な先生の講演を伺ったり、参加者と共に子育ての楽しさを分かち合うことができ、日頃は近隣同士狭いコミュニケーションになってしまう私たちに大きな励みになると感じます。

園によっても父母の会の様子は様々であると思いますが、少子化や子どもたちの育つ環境がめまぐるしく大きく変っていく時代に、家庭はもろんのこと地域での子育て力を高め、これから先も、父母連が保護者間の架け橋となり、いっしょに子育てを共有できる会であることを願っています。



▲ワクワク子育てセミナー



研修会報告

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数
6月3日(水)	新規採用教員研修会	藤沢アリーナ	玉川大学学術研究所こころ教育実践センター TAPトレーナー 白山 明秀先生	「体験しようアドベンチャー教育 第1回」	143名
6月17日(水)	新規採用教員研修会	かながわ県民センターホール	十文字学園女子大学 教授 平田 智久先生	「楽しくなければ造形じゃない」	154名
6月19日(金)	後継者育成研修会	ヨコハマジャスト1号室	神奈川県県民部学事振興課 主幹 志田 肇氏	「学校法人」について	60名
6月25日(木)	第2回統合保育基礎講座 教員免許状更新講習会(選択領域)	かながわ県民センター 2階 ホール	神奈川県立保健福祉大学特別研究員 (精神保健福祉士) 上原 文先生	「子どもの心の発達・子どもをめぐる環境」	155名
7月6日(月)				「子どもの心の発達・子どもをめぐる環境」	110名
8月4日(火)	新規採用教員研修会	鶴見大学	清泉女子大学 教授 吉岡 昌紀先生	「幼児の発達について」	216名
8月5日(水)			文京学院大学 教授 平山 許江先生	「保育者の役割-新人に求められるもの-」	
			せどりひじり幼稚園 園長 安達 謙先生	「映像から子どもの心を読み取り、保育者の援助を考える」	
			関東学院大学 准教授 照沼 晃子先生	【実技講習】 造形 絵本 自然 体を動かす遊び	
			東京都市大学 教授 内藤 知美先生		
鶴見大学短期大学 准教授 佐藤 英文先生	222名				
日本児童遊戯研究所 有木 昭久先生					
8月4日(火)	免許状更新講習会	鶴見大学	文京学院大学 教授 平山 許江先生	「新教育要領を日々の保育にどう生かすか」	97名
8月5日(水)			白百合女子大学 教授 鈴木 忠先生	「子どもの発達に関する脳科学・心理学における最新の知見」	
			スカイハイツ幼稚園 園長 渡邊 眞一先生	「幼稚園の内外における連携協力について」	
		せどりひじり幼稚園 園長 安達 謙先生	「教員として子どもを観、教育観」		

編集後記

いろんなことがあった夏でした。私達幼稚園のあり方を大きく左右するであろう今回の総選挙。この会報が発行される頃には体制が決まっているはずですが…。そして気候。「今年は異常だ」と毎年言いながらやっぱり今年も異常でした。そして今後は心配なインフルエンザ…。で、それと同じく、いや、それ以上にメディアを賑わせていた話題。のりぴーに代表される麻薬の事件。あれは正直、衝撃でした。芸能界に限らず、学生や主婦にまで浸透しているといわれる魔の手。確かに犯罪なので、真相究明は警察の仕事なのですが、私たちはこの行為に対して「やってはいかん」だけで捕らえてしまっているものなのか考えてしまうのです。現代を生きている人々が、いけないことと分かっているながらもつつい手を出してしまうこのストレス社会を作り出しているものは何なのか。幼児教育に関わっている私たちも、決して他人事と考えず、何か、なにか出来るはずだと…。 広報室委員 石井秀卓

後継者育成研修会開催される

田中 貴章(横須賀・うわまち幼稚園)

平成21年6月19日、経営管理部主催による後継者育成研修会がヨコハマジャスト1号館1号室にて開催されました。公演では「学校法人について」をテーマに、神奈川県県民部学事振興課 検査分析班 主幹 志田肇様をお招きして、普段ではあまり聞くことのできない学校法人制度とその運営に関わる「寄付行為」や「学校法人の管理機関」等についてのお話をいただきました。



県父母の会連合会委員総会開催される

村田 清一(川崎・梶が谷幼稚園)

6月18日、ヨコハマジャスト2・3号室において県父母の会連合会委員総会が開催されました。平成20年度父母連北川祐子副会長の開会の挨拶の後、渡邊眞一会長、平成20年度父母連井関みゆき会長が挨拶を述べられました。続いて、平成20年度役員が紹介され、議長に山口繁美振興部長が選任されました。



- 議題①…平成20年度事業報告
- 議題②…平成20年度収支決算書報告
- 議題③…平成21年度事業計画(案)
- 議題④…平成21年度収支予算書(案)
- 議題⑤…役員選出

会長1名・副会長2名・庶務2名・会計1名・その他常任委員2名・監事1名  
議題⑥…父母連研修大会について、11月10日パシフィコ横浜メインホールにて、絵本作家 中川ひろたか先生に講演をしていただくとの報告。

以上、別段意義もなく満場一致で承認されました。

その後、平成21年度父母連井上貴子新会長より挨拶をいただき、そして平成20年度常任委員へ渡邊眞一会長より感謝状の贈呈が行われ、中村邦彦副会長の閉会の挨拶で閉会しました。



平成21年度神奈川県連合会加盟園数

協会名	園数	園児数	前年度園児数	前年度比
横浜	263	54,789	55,849	- 1,060
川崎	82	22,400	22,269	+ 131
横須賀	27	5,179	5,421	- 242
藤沢	31	5,996	6,062	- 66
鎌倉	22	3,282	3,316	- 34
茅ヶ崎	18	3,744	3,661	+ 83
湘央	39	6,870	6,921	- 51
小田原	12	1,379	1,445	- 66
相和	28	5,292	5,351	- 59
相模原	34	7,798	7,970	- 172
逗葉	7	896	960	- 64
厚木	20	3,146	3,345	- 199
計	583	120,771	122,570	- 1,799

県連設立 1948年(昭和23年)

発行

社団法人神奈川県私立幼稚園連合会  
〒221-0011 横浜市神奈川区神之木台22-14  
泉青少年課神之木台分館内  
TEL. 045-430-3102 FAX. 045-430-3103

印刷 (有)石黒印刷

〒232-0056 横浜南区通町3-50-1  
シティコープ弘明寺101号  
TEL. 045-713-0080 FAX. 045-713-0036

ようこそ連合会へ

新規加盟園情報

(平成21年4月 入会園)

川崎市幼稚園協会

学校法人 川崎協立幼稚園

〒210-0834 川崎市川崎区大島3-5-6

(設置者・代表者名)久保 文子

(園長名)久保 文子

TEL. 044-233-8667

FAX. 044-233-8670

JR川崎駅からバスで10分、大島3丁目バス停から徒歩5分の所にあります。自然を体験させたいと海や多摩川のカニ捕など年間10回の遠足、又園内では皆でピカピカの泥団子を競う大会など元気に遊んでいます。

